

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一条スマートタウン西伊場 管理棟	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中区西伊場町2300-1	構造	木造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2022年4月13日
敷地面積	438㎡	作成者	永治 裕太
建築面積	149㎡	確認日	
延床面積	142㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 71%
④上記+ 71%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。	特に配慮している項目はありません。	
Q1 室内環境 サッシは、断熱性、気密性の高いLow-Eガラスを含めたトリプル樹脂サッシを採用している。 空調設備は、各室ごとに制御できるように、それぞれ独立している。	Q2 サービス性能 仕上げ材は、維持管理に配慮し、防汚性の高い建材を採用している。 耐震性は、建物の利用継続性に配慮し、建築基準法に定められている。	Q3 室外環境 (敷地内) 外観の意匠は、周辺環境と調和したデザインとなるように、周辺住宅と同等の意匠とした。
LR1 エネルギー 開口部は、熱負荷を抑制するため、適切な数量や大きさとした。	LR2 資源・マテリアル 便器は、使用量を抑制するために節水型の便器を採用した。	LR3 敷地外環境 雨水排水設備は、敷地外への流出量を抑制するため、雨水浸透枳を採用した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一条スマートタウン西伊場 管理棟	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中区西伊場町2300-1	構造	木造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2022年4月13日
敷地面積	438㎡	作成者	永治 裕太
建築面積	149㎡	確認日	
延床面積	142㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.6
4(教育)	2.1
5(ジェンダー)	2.1
6(水・衛生)	2.0
7(エネルギー)	2.1
8(経済・雇用)	2.2
9(インフラ)	2.1
11(都市)	1.9
12(生産・消費)	2.7
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.8
17(実施手段)	2.2

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。	その他 特に配慮している項目はありません。	
Q1 室内環境 サッシは、断熱性、気密性の高いLow-Eガラスを含めたトリプル樹脂サッシを採用している。 空調設備は、各室ごとに制御できるように、それぞれ独立している。	Q2 サービス性能 仕上げ材は、維持管理に配慮し、防汚性の高い建材を採用している。 耐震性は、建物の利用継続性に配慮し、建築基準法に定められている。	Q3 室外環境(敷地内) 外観の意匠は、周辺環境と調和したデザインとなるように、周辺住宅と同等の意匠とした。
LR1 エネルギー 開口部は、熱負荷を抑制するため、適切な数量や大きさとした。	LR2 資源・マテリアル 便器は、使用量を抑制するために節水型の便器を採用した。	LR3 敷地外環境 雨水排水設備は、敷地外への流出量を抑制するため、雨水浸透枳を採用した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	一糸スマートタウン西伊場 管理棟	BEE	2	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.5 /5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 /5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.1 /5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.9	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①Low-Eガラスを含むトリプル樹脂サッシの採用。 ④「日本住宅性能表示基準、3劣化の軽減に関すること」等級3相当 ④想定補修必要間隔30年の外壁タイルの採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦BPI_m=0.62 ⑨BEI_m=0.61 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型便器の採用。 ⑬ノンフロンEPS断熱材の採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭ライフサイクルCO₂排出量71%とした。 ⑮見付面積比34%以下とした。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑪ 生物環境の保全と創出 ⑫ 敷地内温熱環境の向上 ⑬ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑭ 自然エネルギー利用 ⑮ 設備システムの高効率化 ⑯ モニタリング ⑰ 運用管理体制 ⑱ 節水 ⑲ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑲ 材料使用量の削減 ⑲ 既存建築躯体等の継続使用 ⑲ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑲ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑲ 有害物質を含まない材料の使用 ⑲ 消火剤 ⑲ 断熱材 ⑲ 冷媒 ⑲ 地球温暖化への配慮 ⑲ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.5
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を確保した。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑱ 給排水・衛生設備 ⑱ 電気設備 ⑱ 機械・配管支持方法 ⑱ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.1	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑶周辺のまちなみや景観に対し、良好な景観を形成した。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮見付面積比34%以下とした。 	Q-3 1 ⑵ 2 ⑶ 3 3.2 ④ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑵ 生物環境の保全と創出 ⑶ まちなみ景観への配慮 ④ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		